



2024年9月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

今年は20年ぶりの寒い冬シーズンでピークは越えました。これから初春を迎えますが、前半は南極低気圧の影響で大雨の日が多く、後半は雨が少ない日が多く、今年も異常気象の年でした。

銅価格は年初から3.9-4.0ドルで推移して、4月から世界的に銅の需要が増えて5月に5.0ドルを超えて過去最高値になりました。6月から下げ基調で4.3ドルまで下落して7月以降は4.4-4.5ドル台で落ち着いております。

為替は世界的な自国通貨安ドル高傾向が続いており、チリペソもドルに対して弱い為替が続いておりました。昨年前半は800ペソまで買われましたが、後半は1000ペソ近くまで売られました。しかし7月以降は900ペソまで買われて、ペソ高ドル安傾向になり、今後もチリペソがドルに対して買われる為替になりそうです。

2. 世界市況

世界市況の製材価格は、中近東が1-9月で約30%近く値上がりをしており、韓国の12%、台湾、中国の7%を上回りトップになっております。

日本は約3%の値上がりで、歴史的な円安ドル高の為替がコスト上昇に大きな影響を与えました。8月以降、日本の為替は10%近い円高ドル安傾向になっており、米国の景気後退、中国の景気回復遅れ、戦争の長期化等、不安定要素が多い為替相場です。

中近東市場の買い意欲はまだ強いですが、韓国市場は中国向け輸出の伸び悩みから落ち着いてきました。今後イスラエルの停戦が実現すれば、スエズ運河経由のホワイトウッドの入荷が正常に戻る可能性が高く、チリ材の販売に影響を与えそうです。

昨年から続いたチリ中小製材工場の閉鎖は落ち着いてきました、しかし、国内で流通している丸太の数量は限られており、大手製材工場でも増産には厳しい生産状況が続いております。中国の買い意欲がまだ低迷をしていますが、今後の動きに気をつけていく必要があります。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2024年7月配船(3番船)は8月27日から川崎の荷あくが始まっており、名古屋、大阪へ寄港して、9月中旬頃には荷あくが終了する予定です。

9月配船(4番船)は9月後半から10月に現地入港を予定しており、日本入港は11月後半から12月にかけて年内到着の最終船になります。

これから交渉を始める11月配船(5番船)は現地生産スケジュールから、4番船との間隔を60日から75日に広げる予定ですので、12月配船となり日本入港は来年1月後半になりそうです。来年2025年は今年と同じ年間6バルク配船を目標にしていきたい意向ですが、今後の日本市場の市況によっては、バルク配船のスケジュールを柔軟に対応することも考えていきたい方針です。

b) 梱包市況

梱包需要は中国向け輸出の回復はなく、厳しい市況が続いています。国産杉製材業者も内地物流向けパレット材需要が落ち込んでおり、チリ材、NZ材に比べて価格競争力がありますが、生産数量は増えていない市況です。また建築材市況も低迷をしており、梱包材を挽きたい製材工場が多い傾向は続いております。

7月に入荷した2番船と現在入港中の3番船のコストは今年最高になっており、各社3000-4000円の値上げを8月より実施しております。しかし、地域により温度差があり、値上げが浸透するまでには時間がかかりそうです。

年内12月に到着予定の4番船は、為替相場が8月から円高ドル安へ転化しており、現行の為替相場が続けば、来年2月以降に販売する本船の製材は10%近いコストダウンが期待されます。国産杉製材との価格差が縮小することにより、今後ラジアータ松製材から杉製材への流出が減る可能性が出てきました。

チリ材の在庫は為替が歴史的な円安が続いたこともあり、また輸出梱包材の需要が低迷しており、各社、購入数量を絞っておりタイトな在庫水準になっております。

c) アラウコ乾燥材(KD)

アラウコはチリからの最終コンテナ配船(薄物KD材)が8月末で終了しました。今後は12番工場から生産される厚物KD材の販売のみになります。

薄物KD材に関しては、チリラジアータパイン材からアルゼンチンタエダパイン材へ移行するユーザーも増えてきております。来年前半に販売を開始する仕組み材(クロスカット)により、販売数量は伸びる予測です。

KD材のコストも円高ドル安傾向が続けば、今後は価格が下がることは期待されますので、販売にプラスになるかもしれません。

以上